

▶ **連携の方針**

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「多様性を活かすユニバーサルなまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

分野の境目のない効果的な連携

方針 1：豊かな都心生活を実現する住環境を守り、育てるまちづくり

ライフステージに応じて長く、自分らしく住み続けられる住まい方を選択できる住宅・住環境整備

- 公共住宅、民間住宅のバリアフリー化
- ★保育園等の子育て支援施設や高齢者介護施設の誘導

方針 2：緑と水辺がつなぐ良質な空間をつくり、活かすまちづくり

**子どもが安心して過ごせる居場所の充実
(公共施設、公園・緑地・広場・空地等の公共スペース)**

- 体験や学習、児童館、公園、児童遊園、緑と水辺などの自然と触れ合える場の整備・充実

方針 4：道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

**駅・主要な道路等における、だれもが出かけやすい、安全に移動しやすい環境づくり
(車椅子やシニアカー、ベビーカーの利用などを想定したバリアフリー化、わかりやすいサイン整備等)**

- だれもが社会に参加し、いきいきと暮らせるよう、活動しやすいまちの創造
(鉄道駅のスロープ、エレベーター、エスカレーター／地上と地下街・地下通路との移動)
(鉄道車両、ノンステップ・低床バス、リフト付タクシー)
(歩車道の分離、車椅子の利用を前提とする広幅員の連続した歩道の確保／視覚障害者用ブロック、交通弱者用信号機)
- ★健康寿命の延伸のため健康づくりに配慮した外出しやすく、歩きやすい道路環境の充実

方針 5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

1. だれもが社会に参加し、いきいきと暮らし、活動できる環境づくり
2. 都心で活動するひとの多様性のなかで、障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくり
3. 人生 100 年時代における、居住の継続、活発な活動を重視した環境醸成

方針 6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

都心に滞在するひとの多様性を考慮した安全確保 (高齢者、障害者、外国人等)

- ★都心生活の安心と豊かさを感じることができる地域の施設と公共性の高いサービスの連携・活用
(都心で生活・滞在する人の多様性や大規模災害発生時の活用を想定した運用等)

● 方針 6 ●

災害にしなやかに対応し、回復力の高い 強靱なまちづくり

未来へのまなざし

災害対応力（防災力・復元力・継続性）

千代田区は建物の不燃化が進み、災害危険度は都内で比較すると低いですが、細街路で区分された街区に小規模で老朽化した建物が多いエリアがあることや、高度経済成長期に建設が進んだ都市基盤施設や公共施設が多いこと、河川氾濫時に浸水の危険性が指摘されるエリアがあることなどから、地震や水害による被災リスクを低減する対策を講じていきます。



道路・橋梁、公共施設等の耐震化・長寿命化、更新
建物の耐震化、共同化・更新
都市の骨格的な道路ネットワークの形成

地域では、町会など従来からの防災組織や、防災隣組や帰宅困難者対策地域協力会（町会・事業所）、大学との協定等とともに、都心に滞在する多様なひとのつながりを強めて、災害時に共助の力の発揮によってそれぞれが安全を確保できるようなコミュニティの形成を進めていきます。



千代田のまちで柔軟で多様な働き方、活動を展開する
ひととまちをつなぐコミュニティとその防災対応力
80万人を超える昼間人口と
都心に集積する来訪者・滞在者の安全確保

さらに、大規模地震や水害発生時に、都心千代田の魅力・価値の根幹となる機能・活動の継続性を確保するための拠点形成を進め、エリアとしての防災性を高めるとともに、災害発生直後の安全対策（救援・避難・帰宅困難者対策等）、退避から生活環境確保、復旧・復興などのステップが遅滞なく確実に進むよう、事前の備えに万全を期していきます。

▶ **防災まちづくりの概況とこれからの視点・論点（課題）**

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

● **従来の目標** ●

災害に強く、安心安全に暮らせるまちに

- 一層の耐火性・耐震性の向上等を図り災害に強いまちとしていく
- 災害時に避難や防災活動を円滑に行うための施設やしくみを整える
- 代替となる施設・手段を確保していく
- 迅速な応急対応、適切な復旧・復興を進める



● **まちづくりの主な取組み・成果** ●

- (1) 耐震改修促進計画のもと耐震化率を向上、建築物共同化や都市開発諸制度等の活用により、不燃化率の向上や細街路等の解消、狭幅員道路における電線類地中化を推進
- (2) 大手町・丸の内・有楽町地区では、都市再生特別措置法に基づき、防災機能強化や大規模地震発生時の滞在者等の安全の確保など、ハードソフト両面で防災対応力を向上
- (3) 大規模災害時の地域生活、事業継続や帰宅困難者対策等の事前の備え
- (4) 帰宅困難者対策地域協力会の設置を推進
- (5) 事前行動計画（時系列の災害対応）、災害時の応急・復旧対策計画、被災後の都市復興の手順を整理（地域防災計画、震災復興マニュアル）

従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり



● **これからのまちづくりの視点・論点** ●

災害対応力(防災力・復元力・継続性)

多様性のなかの安全確保

ひとの滞在状況
インバウンドの増加

都市機能と都心生活の継続性

自立分散型エネルギー
都市基盤の強靭性

まちの特性と安全

高経年マンションの耐震化
地下街の浸水防止対策

災害時のコミュニティカ

共助 高齢化と災害対応
防災コンソーシアム

事前の備え

大規模震災を想定した
復興事前準備

【主要課題】

- ◇都心の高度な都市機能の継続性の確保
- ◇外国人を含む多様な滞在者の安全確保・適正な避難誘導
- ◇迅速で的確な災害対応とその事前準備にむけて

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり」の目標を以下のように定めます。

目 標 大規模災害の発生を前提に、都心に滞在する多くのひとの生命を守り、都心生活と首都及び都心の中核機能の継続性を高め、備えていく



区全体の将来像の展開イメージ	『つながる都心』 × 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
歴史・文化がつながる	◇江戸城の遺構を活かした緑と水辺、首都東京の都心形成のなかで形成された放射・環状の都市機能連携軸、首都東京や都心の国際的ビジネス・中枢機能等の強靱性を高め、首都直下地震の大規模災害時にも寸断されない移動・交通、避難・救援のネットワークが形成されている
ひと・まち・コミュニティがつながる	◇建物倒壊危険度の高い建物の耐震化や更新とともに、地域の中核となる開発のなかで、エネルギー確保や備蓄、帰宅困難者の受け入れ等、大規模災害時に都心生活や事業の継続性に貢献する機能が備わっている ◇地域それぞれのコミュニティ、大学等教育機関や企業等の災害時の協力体制など、大規模災害時にまちが強固に連携し、共助の力を発揮できるつながりを醸成している
未来・世界へとつながる	◇神田川や日本橋川など、大規模災害時のひとの移動や物資移動等の機能を補完し、平常時においても都心の豊かな都心生活に活用できるネットワークが充実している
あらゆる情報でつながる	◇首都直下地震、都市型水害など様々な災害リスク情報や区内に住み、働き、滞在する多くの人の情報に対応した対策や復興事前準備が進み、災害発生時に人命を守る避難誘導、帰宅困難者対策、救急・救援等の対応力が備わっている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保

まちの特性を考慮しながら、高経年の建築物の更新や共同化等による、耐震性・耐火性の向上を進めていきます

- ★地域の特性や骨格構造上の拠点の特性・役割に応じた安全確保の対策を進め、震災時に壊れにくい、燃え広がらないまち、水害などに強いまちづくりを総合的に進めていきます。
- ★建物倒壊リスクの高い高経年建築物（マンション・中小規模ビル等）の機能更新や耐震化を促進していきます。
- ゲリラ豪雨などの都市型水害や年の荒川・神田川の河川氾濫等のリスクを分析したうえで、大雨等による水害を防ぐため、河川施設や下水道整備拡充を関係者との連携により推進するとともに、地下ネットワーク等における浸水対策や避難対策等を進めていきます。
- ★震災、浸水被害など、災害のタイプの違いに応じた地下空間のリスクの低減対策、まちなかの避難等を阻害する要因の解消を進めていきます。
- 災害発生後の円滑な防災活動のための拠点として、小中学校や区民館等の公共施設等の施設において、活動拠点としての機能強化を図り、災害時の避難、防災活動が円滑に行えるまちづくりを進めていきます。
- ★高層・超高層の集合住宅等の増加を踏まえて、災害時の孤立化を防ぎ、都心生活を維持・継続させていけるようできるよう対策を促進します。
- ★地域の教育機関や企業等との事前準備、災害発生時の避難・救援、復旧・復興期の各段階における協働体制を構築し、都心で生活・滞在するひとの多様性を考慮した的確な安全確保対策と共助の体制を強化していきます。
(住民、子ども・高齢者・障害者等、外国人、来訪者、滞在者・宿泊者等)

方針 2

大規模災害時の都心の都市基盤、中枢機能の自立性・継続性の確保と活用

大規模災害発生直後の避難等の安全確保対策、都心生活と首都及び都心の中枢機能の継続・早期復旧のための対策を進めていきます

- ★国家中枢機能、都心中枢機能、区の行政機能・医療機関が集積するエリアにおける災害時継続性やアクセス道路の確保等を進めます。
- ★エリアの中核的建築物における機能の自立性・継続性を確保し、災害発生直後から復旧・復興期にかけて、周辺のまちを含めた都市活動が持続可能な市街地の形成を進めます。

方針 3

災害時の移動ネットワーク、ライフラインの強靱性・冗長性の確保

大規模災害に備えて、耐震性に優れ、強靱で代替性のある多重化されたライフラインを構築していきます

- ★大規模災害時に、特定緊急輸送道路・緊急輸送道路、災害拠点病院や災害拠点連携病院等が集積するエリアへつながる道路が機能するよう、沿道の建築物や道路・橋梁等の耐震化、避難救援活動に活用できるオープンスペースの確保を促進していきます。
- ★道路や鉄道などの交通ネットワークやライフライン（電気・ガス・上下水道等）の施設更新・耐震化や冗長性のあるネットワーク形成など、強靱化とバックアップ機能の確保を進めるとともに、災害時には迅速に復旧にとりかかることのできる体制を構築します。

方針 4

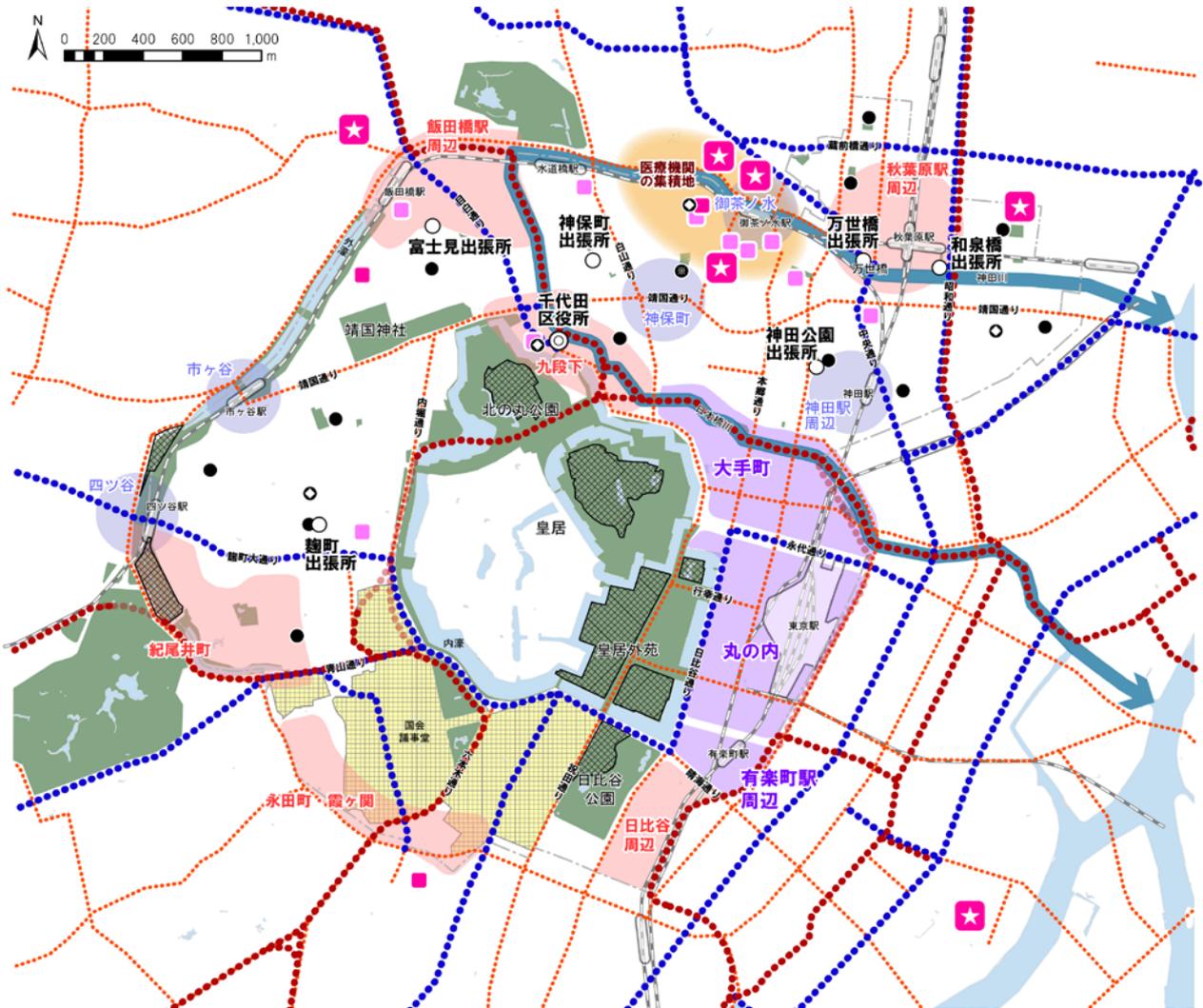
復興事前準備の確立

大規模災害からの創造的復興の道筋を事前に想定し、迅速・円滑に対応するための準備体制を整えていきます

- ★事前準備、発災時からの時間経過（ステップ）に対応した適切な活動のための体制と訓練により、災害対応力を高めていきます
- ★復興事前準備として、大規模災害のきめ細かな被害想定に基づく地域まちづくりの構想や計画を区民等の多様な参加を得ながら検討し、大規模災害発生時に迅速に復旧・復興が進められるよう準備していきます。

▶方針図

災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり



	国際ビジネス・文化交流拠点
	高度機能創造・連携拠点
	まちの魅力再生・創造拠点

	都市計画公園・緑地
	河川・濠
	鉄道・駅（JR）
	一団地の官公庁施設

	特定緊急輸送道路 （高速道路、一部地下）
	特定緊急輸送道路 （高速道路以外）
	一般緊急輸送道路
	河川（日本橋川～神田川）

	区役所
	出張所
	災害時退避場所
	避難所
	福祉避難所

	災害拠点病院
	災害拠点連携病院
	災害医療支援病院 （千代田区内）

※お茶の水小学校は令和5年3月（予定）まで校舎整備のため使用できない
（整備期間中の避難所は神田一橋中学校）

（注）都立日比谷高校・九段生涯学習館は避難所に指定されているが、発災後速やかな開設はしない想定

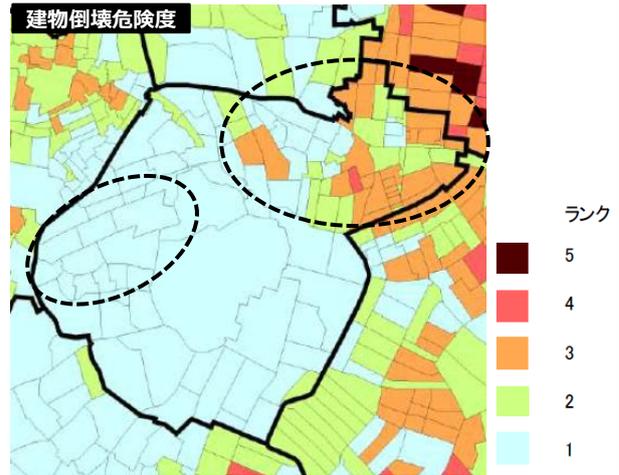
災害時の安全と都心機能・生活の継続性の確保

- 国家中枢機能 + 都心中枢機能の継続
- 大手町・丸の内・有楽町地区から各拠点の特性に応じた安全確保対策の広がり
- 行政機能や医療機関が集積するエリアの強靭性や災害時の自立的エネルギー、避難・救援活動のルートや空間の確保（九段下、神田駿河台等）
- 地下空間における震災時と河川氾濫（浸水）時の適切な災害対策 など



複合市街地の特性に応じた機能更新・耐震化等

- 神田：建物倒壊危険度が比較的高いエリア
⇒敷地規模が小さく、幅員の狭い道路で建て替えが進みにくいエリアでの建て替え・リノベーション・耐震化等（下町の界索性や路地空間の味わいを活かした機能更新）
- 番町：早くからマンション等が立地するエリア
⇒建物の老朽化の状況を踏まえ、円滑な建て替え・長寿命化等 など



出典：地震に関する地域危険度測定調査報告書（第8回）／東京都

河川氾濫時の浸水を想定したリスクマネジメント

- 荒川、神田川・日本橋川の氾濫を想定した流域の災害リスクに対応した浸水対策（外神田～東神田、大手町・丸の内・有楽町～日比谷、飯田橋～神田三崎町・西神田～神田神保町 など）
- 浸水被害を想定した地下空間の管理と避難や情報伝達等の安全確保

千代田区洪水避難地図

【洪水ハザードマップが活用できる、浸水想定区域以外も活用】

この地図は、日本橋川・神田川が氾濫した場合に想定される、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。また、浸水想定区域以外でも、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。

この地図は、日本橋川・神田川が氾濫した場合に想定される、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。また、浸水想定区域以外でも、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。

この地図は、日本橋川・神田川が氾濫した場合に想定される、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。また、浸水想定区域以外でも、地下空間や地下施設が浸水する恐れがある区域を示しています。

神田川版

神田川・日本橋川で溢水の恐れがある場合または区から避難情報が発令されたら、**ただちに頑強な2階以上の自宅・建物・避難所へ!!**

荒川版

大規模水害から命を守る！
区から避難情報が発令されたら、**ただちに浸水想定区域外へ避難!!**

出典：千代田区洪水避難地図（洪水ハザードマップ神田川版／荒川版）

84

▶ **連携の方針**

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

分野の境目のない効果的な連携

方針 1：豊かな都心生活と住環境を守り、育てるまちづくり

まち、ひとの多様な関係性のなかで、共に助け合えるコミュニティの力の育成

★災害に備えた備蓄や訓練等の災害に強いひとづくり、コミュニティの力の育成

方針 2：緑と水辺がつながる良質な空間をつくり、活かすまちづくり

大規模災害時の活用を想定した緑・オープンスペース等の機能確保

○延焼防止にも資する公園・広場などのオープンスペースの確保

★特定緊急輸送道路・緊急輸送道路沿道の避難・救援活動のためのオープンスペースの確保

★病院周辺をはじめ、災害時に活用できる緑地、オープンスペース等の整備と維持管理

方針 3：都心の風格と景観、界隈の魅力を創出・継承するまちづくり

個性ある界隈性や風情を感じる建物やリノベーションとあわせた建物の耐震化

★既存建物の創造的活用と連動した長寿命化やリノベーションと耐震化の効果的な促進

方針 4：道路・交通体系と快適な移動がつながるまちづくり

広域的な避難、救援、物資等輸送ルートの確保

★移動・避難・救援・輸送ルートの確立と機能点検・更新

★災害時における災害拠点病院等や医療機関が集積するエリアへのアクセスルートの確保

★防災船着き場など災害時に機能する水上交通の検討

方針 5：多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

都心に住み、働き、滞在・活動するひとの多様性に対応した災害時の安全確保

★高齢者・障害者や、地域に不案内な外国人・来訪者等への的確な情報伝達と避難ルートの確保・誘導

方針 6：災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり

1. 減災と災害時の生命を守る安全確保、都心生活の継続性確保
2. 大規模災害時の都心の都市基盤、中枢機能の自立性・継続性の確保と活用
3. 災害時の移動ネットワーク、ライフラインの強靱性・冗長性の確保
4. 復興事前準備の確立

方針 7：快適な都心環境を育てるまちづくり

都心における大規模災害時の自立的なエネルギーの確保と利用

○河川や下水道への雨水流入の抑制

(透水性舗装、浸透柵等雨水流出抑制施設、雨水利用等)

★災害時の対応を想定し、地域の特性に応じた自立分散型エネルギーデザインの構築

● 方針 7 ●

高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり

未来へのまなざし

都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用

千代田区の都市構造は、皇居や内濠・外濠、風の通るみち、河川などによって、快適な環境や生き物の生息環境が連続する緑と水のつながりが骨格となっています。夏の地表面温度上昇を抑制するクールアイランドが形成される環境のなかで、環境モデル都市として、低炭素化や環境負荷低減、緑の創出に資する建築・開発、地域冷暖房システム、資源循環などの先駆的取組みで一定の成果をあげてきました。



地球温暖化対策や低炭素都市づくりに資する建築・開発
地域冷暖房システム等のエネルギー・インフラ
ごみの発生抑制・資源効率化
生物多様性

これまでの取組みを継続・発展させて、建物密度の高いまちなかにも緑やうるおい、夏場に涼を感じる空間、環境配慮型の建築・開発を広げていきます。また、都心で高度な土地利用が進み、エネルギー消費の大きい千代田区では、大規模災害発生時の都心の機能や生活の継続性を確保していくことも想定しながら、地域冷暖房システム等のエネルギー基盤の活用拡大とともに、土地利用の状況や未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルを見極めて、地域の特性に応じたエネルギー利用のデザインと具体化を進めていきます。



地域冷暖房システム等のエネルギーインフラの利用拡大
未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルの可視化と活用
大規模災害時の機能継続を想定したエネルギーの自立分散化

▶ **環境と調和したまちづくりの概況とこれからの視点・論点（課題）**

これまでのまちづくりで目指してきたこと（従来の目標）と主な取組み・成果をふりかえり、これからのまちづくりの視点・論点をふまえ、主要課題を以下のようにとらえています。

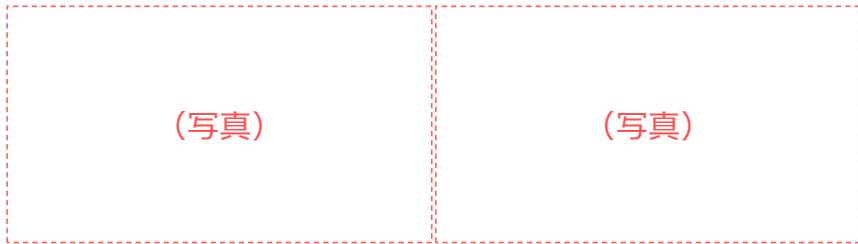
● **従来の目標** ●

次世代に継承する、地球環境に配慮したまちに

- 限られた資源を大切にくり返して使う循環型のまちを目指す
- 自動車による大気汚染を抑制し、環境への負荷が少ないまちとしていく
- 地球環境にやさしく次世代に継承できる環境づくりを進める（鳥や昆虫が棲む自然環境をつくり、人が健やかに暮らせる生活環境を守るなど）

● **まちづくりの主な取組み・成果** ●

- (1) 「千代田区地球温暖化対策条例」を自治体で初めて施行し、閑居モデル都市として、高水準な建物のエネルギー対策を推進、区独自の環境マネジメントシステム「千代田エコシステム(CES)」を導入
- (2) 建築物環境事前協議制度により低炭素化を推進（建築物の一次エネルギー消費削減）
- (3) 地域冷暖房供給エリアや面的エネルギー利用の拡大とともに、ごみ発生の抑制・資源化率の向上により資源循環型都市の形成を推進
- (4) いきものや自然、水辺とまちとが共生する空間を創出し、水質浄化などを推進
- (5) ヒートアイランド現象の緩和対策を推進



コミュニティサイクル（シェアサイクル）

自転車専用道の整備



地域福祉交通「風ぐるま」

従来の目標・取組みをベースに、未来に向けて進化するまちづくり

● **これからのまちづくりの視点・論点** ●

都心の快適性と脱炭素、エネルギー利用

<p>環境技術とモデル都市</p> <p>脱炭素 多様なライフスタイル ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）</p>	<p>共生と生物多様性</p> <p>自然との共生 多様な生き物の棲みやすさ</p>	<p>居心地のよい空間</p> <p>夏に涼しいクールスポット 清潔感のあるまち</p>	<p>地域のエネルギー</p> <p>地域エネルギーデザイン 自立分散化</p>
---	---	---	---

【主要課題】

- ◇環境・エネルギー基盤と未利用・再生可能エネルギーの効果的活用
- ◇世界都心にふさわしい次世代の高質な都市機能・都市基盤・環境性能を持った機能更新

▶ まちづくりの目標

これからのまちづくりの視点・論点・主要課題をふまえて、「高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり」の目標を以下のように定めます。

目 標 脱炭素社会を展望して、都心の構造転換を進める



区全体の将来像 の展開イメージ	『つながる都心』 × 高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり
歴史・文化 がつながる	<ul style="list-style-type: none"> ◇皇居を中心とした緑と水辺の骨格が、都心の快適な環境、生物多様性を育んでおり、環境創造軸に沿ってまちなかに心地よい風の流れ、空間のつながり、夏夏に涼しいクールスポットの創出が広がっている
ひと・まち・コミュニティ がつながる	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域冷暖房やコジェネレーションシステムなど既存のエネルギー面的利用が効果的に広がり、効果的・効率的なエネルギー利用が広がっている ◇地域の中核となる開発において自立分散型のエネルギーの導入が進み、大規模災害時の継続性が確保されている ◇都心の多様な事業活動やライフスタイルの中で、脱炭素の取組が展開されており、環境都市として先導的役割を果たしている
未来・世界 へとつながる	<ul style="list-style-type: none"> ◇まちなかの建築や空間デザインのなかで、ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）などの環境配慮型の開発の誘導、様々な緑化や舗装等の技術の導入、ヒートアイランド対策が進み、都心の環境の快適性が増している ◇下水道やビルの排熱、地中熱、地下鉄の排熱など、地域それぞれの、未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルに応じた効果的なエネルギーマネジメントが行われている
あらゆる情報 でつながる	<ul style="list-style-type: none"> ◇都心の高度な都市活動とエネルギー利用（需要・供給）が ICT でつながり、千代田区全体や地域ごとに最適化が図られている

▶ まちづくりの方針

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

まちづくりの目標を具体化し、効果的に取組みを進めていくため方針を以下のように定めます。

方針 1

皇居を中心とした都心ならではの快適環境の維持・進化

四季の変化を心地よく感じ、清潔で過ごしやすい都心の環境を守り、育てていきます

- 地球にやさしく鳥や昆虫などが棲める自然環境を回復させるとともに、皇居を中心とした環境創造軸において、大規模な公園、外濠・内濠の水辺との連続性を高め、心地よい風がまちに流れるよう、緑化、敷地利用、建物配置等を誘導し、人が健やかに暮らせるための環境を保全・充実させていきます。
- ★騒音・振動、悪臭等の生活・都市型公害を抑制するとともに、まちなかの公共空間や建物周囲の空地等の清潔感を感じる維持管理に努め、健康的で快適に過ごせる街の環境を維持していきます。
- ★保水性舗装、屋上・壁面緑化、高反射率塗装、遮熱対策等の多様な技術導入によりヒートアイランド対策を進化させるとともに、夏に「涼」を感じる居心地の良い空間（クールスポット）を増やし、心地よい都心環境を取り戻していきます。

方針 2

エネルギーの効率的な利用の促進による経済活動と環境配慮の両立

戦略的な開発事業等の誘導を通じて、都心の快適性を高める環境創造軸の創造と脱炭素社会への転換を先導していきます

- エネルギー消費や活動のコンパクトで集約的な都心構造のなかで、限りある資源を大切に利用する省エネルギー型のまちづくりを展開していきます。
(エネルギーの面的利用、未利用エネルギーの活用、水資源の有効活用、ごみの減量や分別収集、資源化のための体制構築・施設整備)
- ★骨格構造の核拠点において、開発等と連動して、環境負荷の低減と地域環境創造の先導的・一体的な誘導を図っていきます。

方針 3

地域の特性に応じたエネルギーデザインの展開

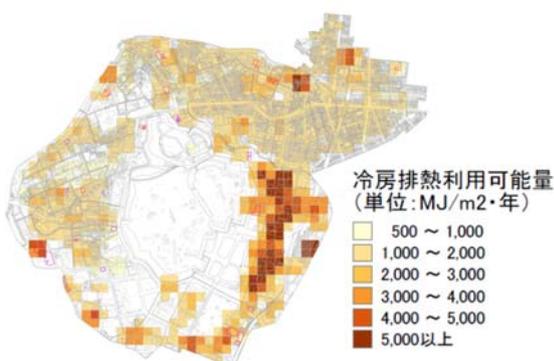
都心エネルギー利用の最適化とマネジメントを行っていきます

- ★地域の継続性を強化し、脱炭素社会にむけて、自律分散型の地域エネルギーデザインとエネルギー利用の最適化のマネジメントを展開していきます。
 - ・地域冷暖房やコジェネレーションシステム等の面的エネルギー利用
 - ・未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルの可視化と実用化・区有施設への導入の可能性検討
 - ・高効率なエネルギー基盤と太陽光発電や蓄電池など、新たなシステムの積極的な導入
 - ・ICT 等を活用した地域全体での最適なエネルギー利用

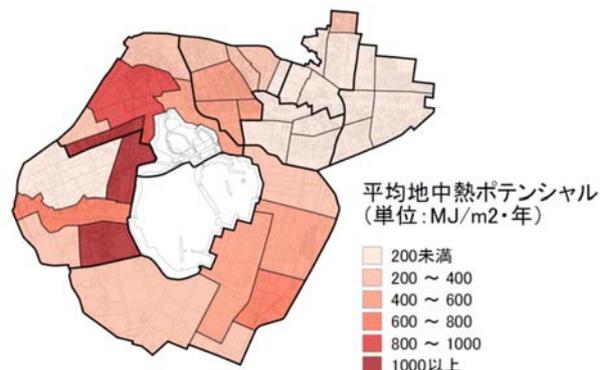
コラム 地域エネルギーデザイン ～都心における未利用・再生可能エネルギーのポテンシャル～

政治やビジネスの中核機能を抱え、活発な開発動向や高度な都市機能の集積によってエネルギー需要が高い千代田区には、下水道やビルの排熱、地中熱、地下鉄の排熱など様々な未利用・再生可能エネルギーのポテンシャルがあるとわれています。今後、より化石燃料に依存しない都心へと進化していくためには、地域特性や未利用・再生エネルギーのポテンシャルに応じたエネルギー利用をまちづくりとともに進めていくことが重要となっています。

冷房排熱（ビル排熱）利用

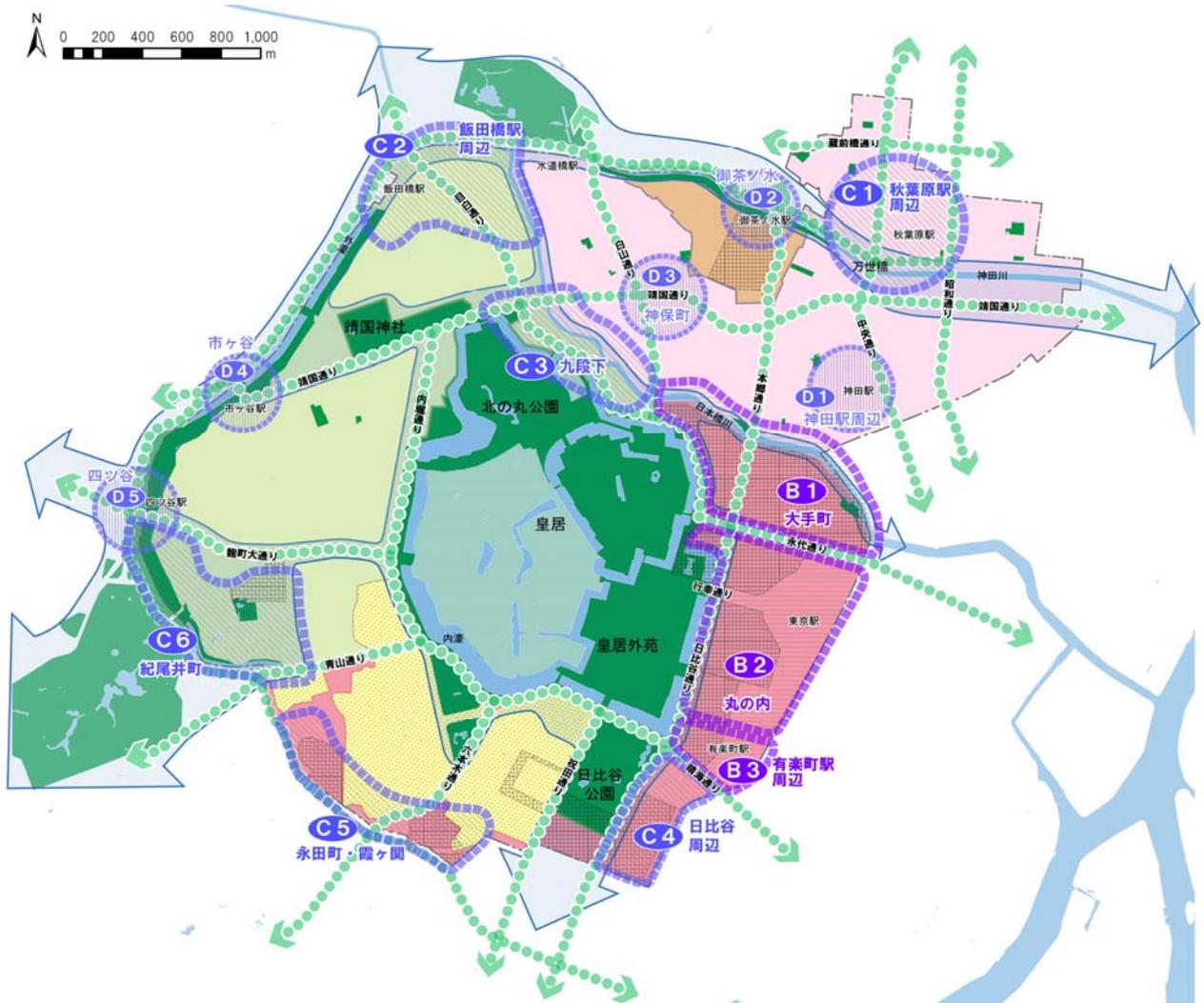


地中熱利用



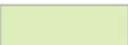
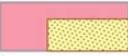
▶方針図

脱炭素社会を展望した都心の構造転換



 環境創造軸
 都市機能連携軸

 国際ビジネス・文化交流拠点 (B1~3)
 高度機能創造・連携拠点 (C1~6)
 まちの魅力再生・創造拠点 (D1~5)

 麹町・番町・富士見エリア
 秋葉原・神田・神保町エリア (医療機関等が集積するエリア)
 都心中枢エリア (一団地の官公庁施設)
 地域冷暖房エリア

 都市計画公園・緑地
 河川・濠

心地よい環境が都心に広がるまちづくり	
環境創造軸	皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、日本橋川、神田川と、環境に配慮した周辺の建築物、オープンスペースなどの連続的なつながりを強め、心地よい環境を都心に広げていきます。
都市機能連携軸	内堀通り（環状1号線）から放射状に延び、環境創造軸を通過する都市機能連携軸がヒートアイランド現象を緩和する“風の通り道”となって、心地よい環境が周辺に広がるよう、沿道の建築・開発等における積極的な環境配慮・貢献を誘導します。

エリアごとの特性を活かした快適環境の創造	
麹町・番町・富士見エリア	都心の心地よさをもたらす環境創造軸にかこまれ、複合市街地としての落ち着きある街並みや市街地環境を維持する麹町・番町・富士見エリアでは、既存建物の耐震化（長寿命化）やリノベーション、建替え更新など、様々な手法に応じて、オープンスペースや緑の空間の充実、より環境性能の高い建築物や設備への誘導など、環境への一層の配慮が進むよう誘導していきます。
秋葉原・神田・神保町エリア	緑が少なく、夏場の地表面熱分布の高い秋葉原・神田・神保町エリアでは、神田川や日本橋川などの環境創造軸やそれらを東西、南北方向につなぐ都市機能連携軸の緑と連続性の高いオープンスペースや建物配置を誘導していきます。また、街区内においても、心地よさや夏場の“涼”を感じる空間（クールスポット）のつながり、老朽化が進む建物の機能更新やリノベーションによる環境性能の向上などを誘導していきます。
医療機関等が集積するエリア	医療機関等が集積する神田駿河台では、既存の地域冷暖房施設を活かしながら、全体として大規模災害時でも、自立的なエネルギー利用ができるエリア形成を進めています。
都心中枢エリア	皇居や日比谷公園などの大規模緑地や内濠、日本橋川との連続性を意識して計画された街区ごとのオープンスペースや建物配置を活かし、地下空間、地上レベル（建物内のスペース、敷地内の空地、公共空間）、建物上部の空間などをつなげ、より居心地の良く、過ごしやすい空間活用を進めています。
一団地の官公庁施設	永田町・霞が関などの一団の官公庁施設の区域では、国家レベルの中枢機能の集積を持続的に支え続けるICT、エネルギー利用等の高度な都市基盤を維持していきます。

環境創造軸の形成や脱炭素社会への取組みを先導する拠点の育成		
国際ビジネス・文化・交流拠点	ビジネス、観光・文化・交流など世界や地方都市とつながる高度な都市機能が集積する拠点エリアでは、都心の活動や滞在・活動する人の多様性が増していくなかで、実証実験などを重ねながら、ICTと充実した都市基盤、移動環境、自立性の高いエネルギー基盤を確立し、周辺へとつないでいきます。	脱炭素社会を目指して、地域特性、環境創造軸や都市機能連携軸とのつながり、建築・開発等の計画規模などに応じて、環境への適切な配慮・貢献を誘導していきます。
高度機能創造・連携拠点	都市基盤整備や複数の開発等が連続して進むなかで、高度な環境性能を有する建築物等の誘導や高効率なエネルギー利用やエネルギーの相互利用のための基盤整備等を進めます。	
まちの魅力再生・創造拠点	エリアの主要な交通結節点として、界隈の魅力を活かすまちづくりや街区再編・機能更新のバランスを保ちながら、環境性能に優れた建築・開発等の誘導し、環境の快適性を高めています。	

▶ **連携の方針**

○現行 MP からの継承／★MP 改定における強化ポイント

「**高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり**」の方針にあわせて、各方針の連携のポイントを明確にし、効果的なまちづくりを進めていきます。

分野の境目のない効果的な連携

方針 2：緑と水辺がつながり良質な空間をつくり、活かすまちづくり

皇居を中心とした緑と水辺を骨格とした、都心の心地よい環境とそのつながりの保全・充実

- 自然環境の保全、回復
- 市街地更新時の敷地利用、建物配置の誘導
(風の流れや緑化、水辺環境、崖線の緑等を残す自然地形への配慮)

方針 4：道路・交通体系と快適な移動環境がつながるまちづくり

将来の自動車利用や技術革新の動向等を見据え、環境負荷を低減する都心の円滑な交通マネジメント

- 駐車場を有効に活用するシステムの整備・情報提供
- 蓄電池機能を備えた E V 駐車場設置の戦略的な誘導
- 大規模開発に対する交通環境予測評価制度導入を検討
- 低公害車の導入と普及促進

方針 7：高水準の環境・エネルギー対策を進めるまちづくり

1. 皇居を中心とした都心ならではの快適環境の維持・進化
2. エネルギーの効率的な利用の促進による経済活動と環境配慮の両立
3. 地域の特性に応じたエネルギーデザインの展開

都市マネジメントの方針

1. 都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり
2. 地域まちづくりの推進
3. 継続的なまちづくりの改善・進化

1

都心の力を創造的に活かす協働のまちづくり

この方針で描いた将来像（ビジョン）は、千代田区で生活・滞在し、活動するたくさんの、そして多様なひと、事業者、組織・団体等が、それぞれの力を活かして創意工夫を重ね、つながりを強めて、具体的なまちづくりを展開して実現していくものです。

千代田区には、多くのひと、モノ、空間、情報が集まり、交わり、都心の様々な魅力や価値、活動と相互に作用しあって、交流と創造の大きな力が生まれています。

多様なある都心のまちづくりを推進していくためには、既存の地域コミュニティはもとより、区民、企業等、在勤者、エリアマネジメント組織、大学等教育・研究機関、在学者、NPO・ボランティア団体等多様な主体との連携・協働・合意形成を図ることが必要です。また、千代田区のまちづくりは周辺区や東京都、そして国にも大きな影響を及ぼすことからこうした関係行政機関との調整・合意形成も重要になっています。

各主体がそれぞれの役割や責任を十分に理解し、まちづくりに取り組むことが大切です。



出典：NPO法人「大丸有エリアマネジメント協会 (Ligare) HP、淡路エリアマネジメント

これからのまちづくりでは、まち・ひと・地域の力と千代田区などの行政が相互に連携し、新しい魅力・価値を共に創り（共創）、育て、未来に伝えていくために、みんなの力を結集し、大きな成果をあげられるようマネジメントしていくことを重視して、その体制や人材育成、環境整備を進めていきます。

2

地域まちづくりの推進

都市計画マスタープランは、千代田区のまちづくりの基本的な方針を示すものです。これを地域で具現化し個別の都市計画や都市づくり施策に展開し、都市のエリアの課題を解決し、魅力・価値を創造するマネジメントにつなげていきます。

地域 まちづくり の推進

都市計画マスタープランに基づき、地域のまちづくりの機運を醸成しながら、地域の課題、まちの動向、社会経済環境の変化を的確に踏まえて、地域特性に応じて、さらに具体的なまちづくりの目標や方針を共有し、地域におけるまちづくりの構想の検討や策定を積極的に支援していきます。

都市と エリアの マネジメント

千代田区には多様な人々の交流と創造の大きな力が生まれています。これからのまちづくりにおいては、都心に集まり活動するひとの力と多様性を効果的に活かせるよう、既に活躍しているひとから新たに千代田区のまちと関わりを持ちはじめたひとまで、幅広く人材を発掘・育成しながら、仲間づくりや活動のスタートアップを効果的に応援していかなければなりません。

都市を「つくる」だけでなく、「使う」「育てる」ことを念頭におき、こうして育て、広げた力を最大限に活かして、千代田区ならではの多様な価値を次世代に継承し、発展させていけるよう、歴史を継承し最先端を歩む千代田区ならではのエリアマネジメントの実現を目指します。開発事業が契機となるエリアマネジメントはもとより、既成市街地におけるエリアマネジメントの可能性についても検討し、具体化を支援していきます。

まちづくりと マネジメントの プラットフォーム

千代田区内の各地におけるまちづくり協議会の設立、まちづくり構想の立案、開発協議、エリアマネジメントなどの実績を踏まえて、地域の多様な主体が連携し、それぞれの力を発揮して、まちのポテンシャルを活かした魅力・価値創造を持続的に進め、発展させていける仕組みを確立していきます。

地域まちづくりの熟度の高まりと具体化のイメージ



3

継続的なまちづくりの改善・進化

都市づくり白書など、都市計画基礎調査と連動した町とまちづくりの分析により、都市計画マスタープランに基づくまちづくりの成果・課題を定期的に把握しながら、区政の根幹となる基本構想・基本計画に基づく施策・事業の実施や改定と連動させて、時代の変化に的確に対応して、目標や方針などを柔軟に見直していきます。

また、その見直しのサイクルのなかで、今後の、ビッグデータの活用や ICT・AI 等の技術の進展とともに、都心に住み、働き、滞在・活動する多様なひとの動きをリアルタイムに近いデータで把握し、都市計画・まちづくりの課題・論点、具体的な方策を検討し、実行・改善を適時適切に行うマネジメントの手法を確立していきます。

まちづくりの基本調査「都市づくり白書」

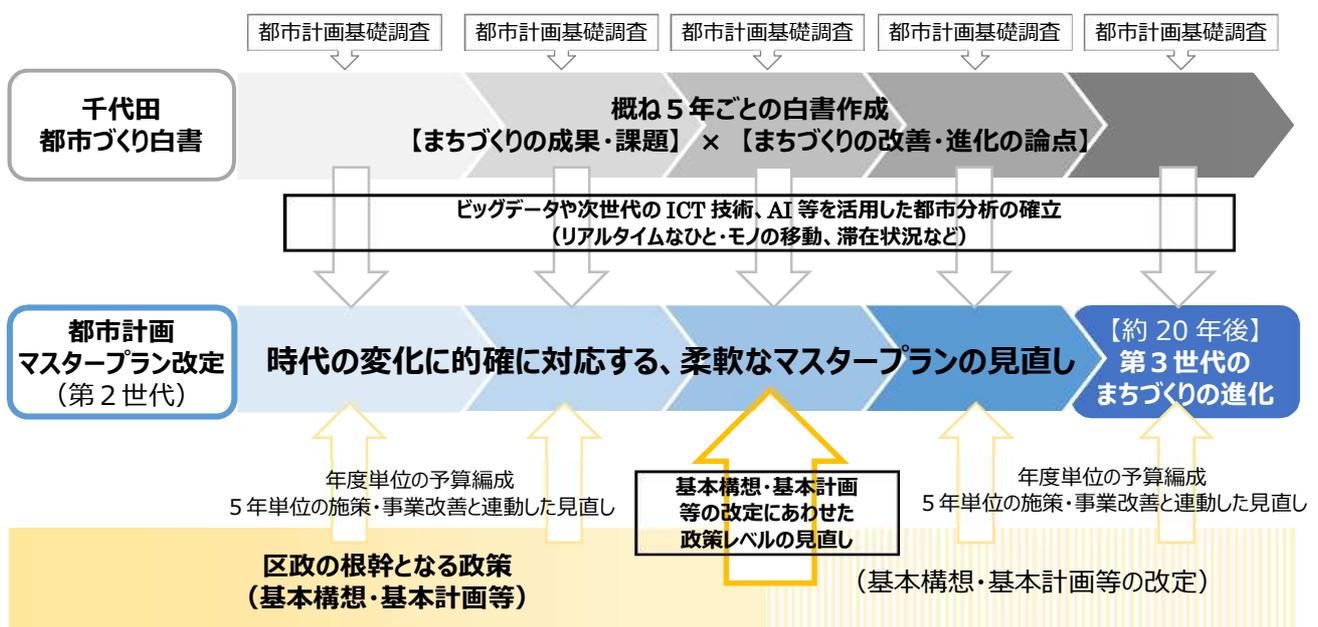
都市計画基礎調査とともに、都市の多様な空間や流動、ストック・資源の情報、統計情報、地図情報など、都市や地域の状況や変化を把握できる情報・データを定期的に調査し、それを公開し多様な主体がまちづくりについて議論できる都市づくりの情報のプラットフォームを構築します。

例えば 5 年ごとの都市計画基礎調査が実施されるタイミング等にあわせて、その時点の成果・課題（都市づくり白書）をまとめ、その先のまちづくりの改善・進化に向けた論点を整理していきます。

マスタープランの改定

年度単位の予算編成、千代田区都市づくり白書と連携した 5 年単位の施策・事業改善、機動的で柔軟な見直しへの対応、10～20 年単位の計画改定など、施策・事業～政策の評価・改善のレベルに応じて、区政の根幹となる戦略（基本構想・基本計画等）と連動させながら、都市づくりの取組みを改善し、進化させるため「都市計画マスタープラン」は必要に応じて柔軟に見直します。

時代の変化に的確に対応する都市計画マスタープランの柔軟な見直しのイメージ



“次世代の都心・千代田の進化”を目指す区全体のスマートなマネジメント

次世代の ICT 環境が高度に充実していくなかで、ビッグデータや AI などの革新的技術を使いこなして、都心に住み、働き、滞在・活動する多様なひとの動きをリアルに分析し、様々な地域課題の解決や都心生活の質（QOL）を高める都心のサービスの進化に対応して、都心の充実した都市基盤、高度な都市機能、空間等の再編・再配分や資源活用の効率化・最適化を進めていく都市マネジメントの体制を確立していきます。

次世代の都心の価値を高める都市マネジメントの進化のイメージ

